

第 14 回富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議の概要

1 日 時 令和 5 年 10 月 10 日（火） 14 : 00 ~ 16 : 00

2 場 所 富山県民会館 8 階バンケットホール

3 内 容

(1) 表 彰 式

(2) 議 事

ア 富山県食品ロス削減推進計画に基づく食品ロス等削減に係る取組みの進捗状況について（事務局から報告）

イ 取組事例紹介

ウ 意見交換

4 主な意見の概要

<食品ロス削減対策全般>

- ・ 他人事ではなく自分事となるよう、普及啓発に力を入れていただきたい。
- ・ 様々な団体で実施している表彰を、各団体の中のみで紹介するのではなく、団体が連携して良い取組みを一つにまとめて紹介することで、より関心が広がっていくと思う。
- ・ 食品ロス削減の必要性を子どもたちや一人暮らしの学生、若い社会人に理解してもらい、実践してもらうことが重要。

子どもから若者や大人まで、幅広く食品ロス削減対策に関心をもち、実践されるよう、引き続き関係機関と連携し、ホームページや出前県庁による講習会、学校の授業の活用、さらにはターゲットに応じた情報発信など、様々な機会を通じ、自分事として捉えられるような周知・啓発に努めてまいりたい。

<事業系食品ロス>

- ・ 包装材料の進歩、食品ロス削減に対する意識の高まりにより、年月表示化が増えている。
- ・ 流通プロセスの中で、どこで廃棄が出ているか現場を見る必要がある。
- ・ 3分の1ルールから2分の1ルールへの変更は、相当浸透してきている。
- ・ 料理の持ち帰りへの対応は、安全安心に食べられるものを提供するため、難しい。
- ・ 期限間近商品の優先購入が浸透してきている。消費者、販売者双方にメリットがある取組みにつながっていくとよい。

商慣習の見直しについては、個々の企業の取組みのみでは解決が困難であり、製造事業者、卸・小売の流通段階、消費者までのフードチェーン全体での取組みが進んでいるところである。食べ残しの持ち帰りへの対応については国において策定予定の食べ残し持ち帰りガイドライン等をもとに、自己責任を前提とした可能な範囲での持ち帰りの推進を検討してまいりたい。

<未利用食品の有効活用>

- ・ 提供側と受取側のマッチングが課題であり、それぞれの情報を交通整理するようなマッチングのための仕組みづくりが重要。
- ・ 避難物資の情報を集めて有効活用してはどうか。

フードバンク活動など、未利用食品の有効活用については、活動団体等の取組状況やご意見の把握に努めるとともに、関係機関・団体との連携を強化し、事業者や受取先の情報発信やマッチング支援など、取組みの輪が広がるよう引き続き取り組んでまいりたい。避難物資の有効活用については関係団体等を通じて、フードバンクへの寄付を案内するなど周知に努めてまいりたい。